

不真実な我が身を知らされる

第 11 組廣専寺 近藤 龍讓

「浄土真宗に帰すれども 真実の心はありがたし

虚^こ仮^け不^ふ実^{じつ}のわが身にて 清^{しょう}浄^{じょう}の心もさらになし」

これは親鸞聖人が正^{しょう}像^{ぞう}末^{まつ}和^わ讃^{さん}において述べられている言葉で、現代語訳すると「念仏往生の教えに帰依しているとはいうものの、真実の心はとても得がたく、中身の無い不実な自分が明らかになるばかりで、清浄な心など望むべくもないほどです」といったものになります。

これは親鸞聖人が念仏往生の教えに帰依していながら、真実の心が得られないうという自己の至らなさへの歎きと、仏から真実の何たるかを教えられ、それによって自己の不真実に気づかされたということが言われています。

仏の真実に触れることで、不真実な私の姿が浮かび上がってくる、本当ならば目を背^{そむ}けたい自身の姿でしょう。しかし、仏は容赦なくその姿を私に突きつけてきます。

私は銭湯やサウナが好きでたまに入浴しに行きますが、最近いつも入りに行くサウナで、常連さんがたまたま入ってきた若いお客さんに何処から来たのか尋ね、関東から来ましたという会話を耳にしました。実際の会話では彼は関東の具体的な地域を答えましたが、ここでは関東としておきます。彼の出てきた地域

にも、彼にもなんの罪もありますが、このコロナ禍で私は心にざわざわとした
気持ちが沸きあがってくることを止められませんでした。

清浄の心もさらになし、また悪性さらにやめがたしという悪は人間の本性な
のだという聖人の指摘が突き刺さる、まさに差別をする不真実な我が身を思い
知らされる出来事でした。

皆さんはどうでしょうか？このコロナ禍の世界で以前より不真実な私に出会
うことが多くなってきているのではないのでしょうか。しかしその不真実な私こ
そが私なのです。

そんなどうしようもない自分に出会い、向き合う機会を与えてくれるのが仏
からのはたらきかけなのです。